

総 括

大阪商工会議所
会頭 田代 和

大阪商工会議所は 2004 年 1 月 8 日から 12 日までの 5 日間、大阪の姉妹都市であり、会員企業が最も関心を寄せる上海地域との交流を目指して「上海経済視察団」を派遣した。

本視察団の目的は、大阪府・大阪市と連携して「大阪投資環境説明会」を開催し、上海企業の大阪誘致を図ること、中国経済の原動力として台頭してきた新興企業家や上海の主要企業を抱える上海市工商業連合会、上海市政府首脳との懇談を通して、大阪と上海地域との双方向の交流の方途を探ることであった。

日本進出に強い関心を持つ上海企業を対象にした大阪投資環境説明会では、先進国一國に匹敵する市場、パートナーとなり得る高い技術・製品開発力を誇る企業の存在などを紹介し、大阪を投資先として選ぶよう訴えた。予想を上回る参加があり、今後、大阪外国企業誘致センター(O-BIC)を通じて、参加企業に個別に大阪進出を働きかける予定である。

大阪商工会議所はこの度、大阪工業会と友好姉妹関係にあった上海市工商業連合会と初めて懇談の機会をもったが、両団体の首脳陣が忌憚無く意見を交わしたことで、新たな交流の礎を築くことができた。

新興企業家との懇談では、過去の失敗を乗り越えて今日の成功につなげた事例発表はじめ活発な意見交換を通して、大阪企業と上海企業の補完関係は強いものがあり、ビジネス拡大に繋げる余地は大きいと感じた。この度の懇談を一過性のものに終わらせることなく、上海の企業家との絆を大切にし、今後のビジネスに活かしていきたい。

姜斯憲上海市人民政府副市長との懇談では、大阪・上海両地域のさらなる交流拡大には、大阪からの一方通行ではなく、上海企業による大阪投資を促進し、同時に大企業にとどまらずより多くの中小企業が互いの強みを活かした WIN・WIN 関係を構築していくことが不可欠と訴えた。一方、来阪経験のある姜斯憲副市長は、浦東新区の開発とも絡めて、大阪との交流および理解促進に努めたいとの考えを示した。

上海滞在中、国土交通省の「グローバル観光戦略」の一環として行われた「ようこそ！ジャパン・上海 2004 日中文化観光交流展」を視察する機会を得た。大阪観光コンベンション協会ははじめ日本側 67 団体 2,300 名、中国側 22 団体・企業が参加、会場は日本観光に関心を示す多くの中国人で賑わい、対日観光への関心の強さがうかがえた。

中国をリードする上海は、我々の想像を遥かに超えるスピードとスケールで発展している。私自身、その発展振りをある程度知っているつもりだったが、林立する超高層ビルや建設ラッシュを目の当たりにし、また最高時速 430 キロメートルを誇るリニアモーターカーに乗ってみて、まさに「百聞は一見に如かず」との思いを強くするとともに、日本のバ

ブル期を凌ぐ上海の勢いを感じた。上海は水・電気不足、不良債権、貧富の格差拡大等さまざまな問題を抱えているが、少なくとも今の勢いは上海万博が開催される 2010 年頃まで続きそうだ。この上海の勢いを大阪の活性化に役立てていきたい。

本視察団を通じて、上海経済の実情をつぶさに視察することができ、また双方向の投資交流という新段階の日中経済関係構築に向けた一歩を踏み出すことができた。

最後に、本視察団の派遣に際して、格別のご高配を頂いた在大阪中華人民共和国総領事館の邱国洪総領事、上海市工商業連合会、大阪府、大阪市などの関係各位に改めて厚く御礼申し上げます。

2004年3月